

VI 指導案

1 指導案の作成方法と実践

模擬授業の知見を踏まえ、「I 研究の概要」で設定した課題を解決するため以下のとおり、小学校低学年・中学年・高学年、中学校、高等学校の5本の指導案を作成した。

(1) 作成の方法

- ①小学校 …協力校が所在する茂原市が採択している道徳科の教科書以外を通覧し、いじめに関する教材の中から選定した。その際、単に「いじめを止める」というストーリーのものではなく、いじめについての知的理解、傍観者からの脱却などのテーマに関係が深いものを選定し、実際にそうしたテーマに迫れるような流れで学習できる指導案、ワークシートを作成した。【P33～54記載】
- ②中学校 …小学校低学年への模擬授業で阿部氏が活用した「Changers」作成の教材の中から、中学校生活において起こりがちなテーマを選定し、いじめや集団心理（よりよい集団とは）などを主題として学習できるような指導案・ワークシートを作成した。【P55～61記載】
- ③高等学校…模擬授業で真下氏が実施した法的視点を踏まえたいじめ防止授業の続編である。いじめの構造を理解すること（四層構造）と傍観者脱却に主眼を置き指導案を作成した。ワークシートやシナリオは真下氏が作成したものである。【P62～68記載】
学校で実践する際は、まず模擬授業で行ったもの【P26～29を参照】を行い、次に当指導案を実践することが推奨される。

※なお、各教科書等から引用した教材文や挿絵を使用することに係る著作権について、千葉県教育委員会にて許諾申請済みである。

(2) モデル授業の実践

上記のような方法で作成した指導案を使用した授業を周知するため、下記のような実践を行った。

- ①協力校におけるモデル授業実践（令和7年11月～令和8年1月）
 - ・実施規模は各校ごとの任意（学級単位または学年単位など）
 - ・授業者以外の教職員は参観
- ②モデル授業実施学級以外の学級で実施➡研究の成果が全校に普及

※実施したモデル授業のうち、小学校中学年用以外は文部科学省による動画撮影が行われた。編集の上、文部科学省ホームページに掲載予定である。

2 指導案の内容

(1) 小学校低学年向け

単元名：正しいと思うことを

「ある日のくつばこで」（日本文教出版）

内容項目：A 善悪の判断、自律、自由と責任

1 指導観

本授業は、いじめの未然防止や早期発見に向け、傍観者を減少させ、被害者のために行動できる児童を育成することを目指して設定した。

児童はいじめを目前にすると、自分が被害者となることへの恐れや加害児童との人間関係などから、必ずしも瞬間的に正しい判断ができなかったり、適切な行動をとれなかったりすることがある。本時では、そうした児童の葛藤に対して、主人公を通じて共感しつつ、その中でいかに自分が正しいと思う言動ができるかを重視している。このため、教材文をすべて取り上げるのではなく、児童が葛藤を感じた場面までとした。本時を通じ、意地悪に対して正しく判断し、実行することが大切だと伝えたい。

2 本時の指導

(1) 目標

友達の意地悪な行為を目撃した時に、正しいと思うことを考えて行う大切さに気付き、それを進んで行う態度を育てる。

(2) 展開

過程 時配 形態	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ○指導と支援 ★評価	資料 教具
導入 7分 一斉	1 教員の体験談などを基に自分の経験を想起する。 ○友達とケンカをして、気持ちがいちいち悪くなっているとき、どうすればすっきりするでしょうか。 ・友達と話し合った。 ・別の誰かに相談した。 ・友達に仕返しをした。	○児童の経験を想起することで、ねらいとする価値への方向づけをする。 ○場面をイメージできるように、授業者が具体的な（相手も悪いと思われるような）エピソードを話すのも良い。 ○事前アンケートの結果と関連して話しても良い。 ○意見が出にくい場合はペアで話し合わせても良い。 ○その場で児童が発言したことを指導せず、受容的に聞くことで、話しやすい雰囲気を作る。	
いじわるをされている友だちのためにどんなことができるかな。			

<p>展開</p> <p>28分 個別 一斉</p>	<p>2 教材文を読んで話し合う。</p> <p>○「だれにも言わないでね。」と言われて顔を見合わせたまり子さんはどのような気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。 ・くみ子さんに教えてあげないと。 ・かずみさんに「だめ」と言わないと。 <p>3 まり子さんの気持ちになって話し合う。</p> <p>○もしあなたがまり子さんなら、このあとどうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かずみさんに注意する。 ・今日のことを先生に言う。 ・くつをもどしてあげる。 ・なにもしない。 ・くみ子さんと仲良くしてあげる。 <p>4 話し合った内容などを発表する。</p>	<p>○「顔を見合わせる時はどんなとき？」などと問い、まり子の戸惑いを感じさせるとともに、いじめを防ぐための正しい行いの難しさについて考えさせる。</p> <p>★いじめについて、関係者との人間関係や背景、自分の感情に関係なく、それを良くないことと捉え、正しいと思う行為について述べているか。</p> <p>○書いたらペアで話し合う。</p> <p>○学級の状況によっては端末を使用してもよい。</p> <p>○補助発問として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もしかずみさんに『だめだよ』といたら怒るんじゃないかな」 ・「かずみさんともものすごく仲良しだったらどうする？」 <p>などと問い、人間関係や感情に左右されることの問題点に気づかせる。</p> <p>○「どうしてそうするの」とその理由を問うことで、さらにいじめが良くないことだという思いや、正しいことをする喜びを感じさせる（無理には追及しない）。</p> <p>○学級の状況によって、役割演技やペープサートを導入する。</p>	<p>教材文</p> <p>ワークシート</p>
<p>終末</p> <p>10分 個別 一斉</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>○今日の感想や学んだことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いけないことはしっかり伝える。 ・困ったことがあったら先生に相 	<p>○被害者に寄り添ったり、教師に報告したりすることも「勇気を出して正しいことをした」と捉え、称賛する。</p>	

	談する。 ・いじめられた人にやさしくしてあげる。		
--	-----------------------------	--	--

(3) 板書計画

			<p style="text-align: center;">ある 日の くつばこで</p> <p style="text-align: center;">いじわるをされた友だちのために、どんなことができるかな。</p> <p>○友だちとケンカをしたとき・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとはなしあう。 ・だれかにそうだんする。 ・しかえしをする。 <p>○「だれにもいわないでね。」といわれてかおを見あわせたまり子さんはどのような気もちでしたか。</p> <div style="border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 5px auto; padding: 2px;">まり子さんの絵</div> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。 ・くみ子さんにおしえてあげないと。 <p>○じぶんがまり子さんだったら・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かずみさんにちゅういした。 ・きょうのことを先生にいった。 ・くみ子さんとなかよくしてあげる。 <div style="border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 5px auto; padding: 2px;">まり子さんの絵</div> <p>○きょうのかんそうや学んだこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いけないことはしっかりつたえる。 ・こまったことがあったら先生にそうだんする。
--	--	--	--

◆この指導案は教材文129ページまでを提示する案である。

別案として最後まで教材文を活用するものを、以下の流れで想定している。

- ・導入—展開 発問①顔を見合わせたときの気持ちまでは共通
- ・その後 発問②心が曇っている理由—発問③心が晴れたまり子は何をしたと思うか—終末（共通）

ある日のくつぼこで

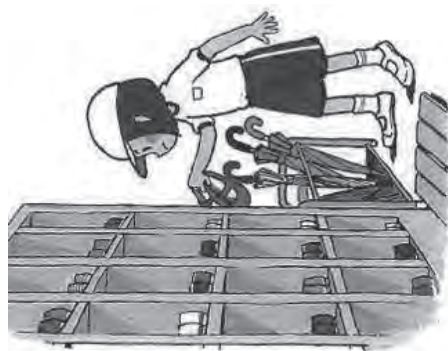
なまえ ()

ある日の三時間目、たいいくのじゆぎようがもうすぐはじまるとい
うときのことで。たいいくかんに ついた まり子さんは、教室に赤白ほ
うを わすれた ことに 気が つきました。としおさんも 同じように 赤白ほ
うを わすれたようです。二人は、いそいで とりに行きました。

教室から たいいくかんに もどろうとして、くつぼこの よこを 通る とき、
同じクラスの かずみさんが くつぼこのとりに いる ことに 気が つきま
した。

「かずみちゃん。」

と、声を かけようとした その ときです。
かずみさんが だれかの くつをかき立ての後ろ
に そつと かくしたのが 見えました。



まり子さんたちが びっくりして いると、ふりむいた かずみさんと
目が 合いました。

かずみさんも びっくりしたような 顔を しましたが、
「さつき くみ子ちゃんと けんかしたの。
だれにも 言わないでね。」

と 言つて、たいいくかんの 方に 走つて 行きました。
かくしたのはくみ子さんの くつだったのです。

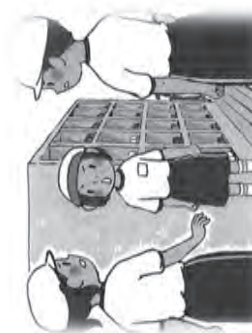
まり子さんと としおさんは 顔を 見合わせました。



ある 日^ひの くつばいで

() 年 () 組 なかえ ()

○もし、あなたが 持ち手^てせん なら、このあと どうしますか。



○おもしろい かんそう や 学んだ^{まな}ことを かき書^かきましょう。

(2) 小学校中学年向け

単元名：判断したことは自信をもって（正しい判断、自信をもって）

「サルのものまね」 ※参考図書「いっしょになって、わらっちゃだめだ」（東京書籍）

内容項目：A 善悪の判断、自律、自由と責任

1 指導観

本単元は、いじめの未然防止や早期発見に向け、加害者はもとより傍観者を減少させ、被害者のために行動できる児童を育成することを目指して設定した。

使用する教材文については、全て取り上げるのではなく、児童が葛藤を感じた場面までとした。また、「いっしょになって、わらっちゃだめだ」（東京書籍）を参考図書とし、単元名を独自に変更し「サルのものまね」とした。

事前に教材文を朝の読書の時間等（学校の実態に合わせ）で読んでおくことや「いじめアンケート」を実施するようにした。そうすることで、授業内での活動時間の確保やいじめに対する学級の実態を把握することができるだろうと考えた。

日常の学校生活においても、物事の善悪についての確に判断するように指導している。そのため、何が正しいか、どうすれば良いかは、多くの児童が頭の中では理解できると考える。しかし、正しいことと知りつつも、なかなか行動できなかつたり、悪いことと知りながらも周りに流されたりして、正しい判断や適切な行動が実行されない場合もあると考えられる。

そのような現状を踏まえ、本単元では、以下の3点に重点を置き、指導にあたっていく。

- (1) 正しいと判断したことは、勇気や自信をもって行動することの大切さについて気付かせる。
- (2) いじめられている人に対し、様々なサポートの仕方があることを確認する。
- (3) 一人一人が自分にできる方法で、いじめに「NO」という意志を表示する意識をもって、教室の空気を変えていこうとする心情を養う。

2 本時の指導

(1) 目標

まわりで「いじめ」をしているところを見た時に、正しいと判断したことは、自信をもって行動しようとする態度を育てる。

(2) 展開

過程 時配 形態	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ○指導と支援 ★評価	資料 教具
導入 3分 一斉	1 事前に行ったアンケートの結果をもとに良くないことをしている場面を見た時、どのような行動をするかについて考える。 ○授業の前に行ったアンケートの結果をみんなで確認してみましよう。 ・やめなよと、声をかける。	○イラストを大型モニターに投影し、児童が視覚的にも場面をイメージしやすいようにする。 ○提示したいじめを連想させるイラストを基に、良くないことをしている場面を見た時にどうするかを問う。 ○児童の発言をもとに、良くないこ	具体的な場面を表したイラスト 大型モニター 教師用タブレット


	<ul style="list-style-type: none"> ・注意する。 ・先生に言う。 ・かわいそうだけれど注意できない。 ・どうしてよいかわからない。など 	とだと理解していても行動に移せない人間の弱さに目を向け、問題意識をもたせ、学びの主体意識を高める。	端末
まわりで、からかいやいじられているのを見た時、どのような行動をすればよいだろうか。			
展 開 25分 個人 ↓ 一斉	2 教材文（別紙）を基に、ゆうじの気持ちを考える。 ○ゆうじは、「サル。」と言われ続けているが、なぜ黙ったままなのでしょうか。 ・怖くて言い返せない。 ・だれかが助けてくれるかも思っている。 など	○ワークシートを配付する。 ○事前に読んでおいた教材文の場面を振り返る。 ○ゆうじの気持ちを考えさせ、嫌がっている人に対して、笑ったり、からかったりする行為は「いじめ」だということを認識させる。 ○数名の児童に発表させる。	別紙 ワークシート
一斉	3 からかわれているゆうじに対して、何もできないでいる『ぼく』の気持ちについて話し合う。 ○みのるたちからかわれているゆうじに対して、何もできないでいる「ぼく」は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・どうしたらいいのだろうか。 など	○ゆうじをかわいそうに思い、何とかしたいが、みんなの雰囲気にもまれ、何も言い出せないで葛藤している「ぼく」の心情をとらえ、共感できるようにする。 ○数名の児童に発表させる。	
個人 ↓ 一斉	4 みのると「ぼく」が、目が合った時、どんな思いだったかを考える。 ◎みのると「ぼく」が、目が合った場面がありましたが、もし自分だったらその時にどう思いますか。 ・ぼくは一緒になってからかうのはいやだ。 など	○自分に視線を向けられた時に、どう思うかを考えさせ、ワークシートに記入させる。 ○自分にできることを、堂々と自信をもって行うことの大切さを捉えさせる。 ★善悪を判断し、自信をもって行動することについて考えている学習状況を把握する。	ワークシート
グループ	5 グループで話し合い、自分の思ったことを友達と伝え合う。	○3～4人の小グループを作り、自分が思ったことを伝え合うようにさせる。	
終 末	6 「いじめを見ている人」、「周囲	○吹き出しには、自分だったらどう	ワークシ

<p>17分 個人</p> <p>一斉</p>	<p>の人たち」についてのイラストを見て、自分だったらどうするか考 える。</p> <p>○吹き出しに、自分だったらどうす るか、自分の考えをワークシート に書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生に相談してみようかな。 ・友達を遊びに誘ってみよう。 ・やりすぎじゃないかな。 など <p>7 教師の説話を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【教師の説話の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめに対し、自分をかばって くれたことにより、また、その 場から離れた場面でサポートさ れたり励まされたりして勇気づ けられた事例を紹介する。 </div>	<p>するかを考えさせ、ワークシート に書かせる。</p> <p>○数名の児童に発表させる。</p> <p>★善悪を判断し、自信をもって行動 することの大切さを考えながら、 自分を見つめている学習状況を 把握する。</p> <p>○1～2分程度の短時間で、実際に いじめられていた人の言葉や友 達の勇気ある行動に、とても心を 響かされた経験談を話す。</p> <p>○正しいと判断したことは、勇気や 自信をもって行うことについて 気付かせる。</p> <p>○いじめられている人に対し、様々 なサポートの仕方があることを 確認する。</p>	<p>ー 大型モ ニター 場面を表 したイラ スト 教師用タ ブレット 端末</p>
-----------------------------	---	--	--

〈板書計画〉

自分だったらどうするかを考えてみよう。

- ・先生に話してみよう・・・
- ・友達を遊びに誘ってみよう。
- ・やりすぎじゃないかな。




ぼく

どうしたらよいか、
わからない・・・

↓

みると目が合った


サルのものまね




みるの

サルだな「サル」「サル。」

↓



ゆうじ



いじめ

ゆうじは、なぜ、だまっただままでいるのだろうか？

- ・こわくて、言い返せない。
- ・だれかが助けてくれるかもしれないと思っ
ている。
- ・いやだけれど、がまんしている。

それは、昼休み、みんなで話をしてしまったものなんだ。

クラスでいちばん元気のよいみのるが、

「ゆづじって、なにかにしてこない？ サルにしているよな。」

と言って、みんなをわらわせた。みんなは、

「にてる、にてる。」

と言いつつながら、手をたたくおもじろがった。

「ゆづじは、サルだな。モングキーグイローだ。」

ゆづじは、うつむく顔をしたが、

「キツキー、キツキー。」

と、サルのまねをしながら、わらっているほぐたちの前を通って

自分のせきにもどった。ほぐたちは、せきに着くゆづじを見て、

まだトツとわらった。



次の日の朝、ほぐが教室に入ると、みのるたちがゆづじを、

「サル。」「サル。」

とよんでいた。ゆづじは、だまっている。近くにした子が、

「おぼれているぞ。返事をしろな。」

と呟をかけた。ゆづじがずっとだまっているのを見て、

みんながまたわらひ始めた。

「サル。」「サル。」と呟の呟がいつく中、わらひ呟はだんだん大きくなっていった。

ほぐはゆづじだらけのかわからず、うつむいた。

朝あさの会かいが始はじまった。ほくは、

(「うっただいらいんだ、うっただいらいんだ。」)

七頭ななごしらの中なかでぐり返かえっていた。一時間いちじかん目のしゅれちの中なかで、

そのじぶがずこ七頭ななごしらからはなれなかった。

(「うっただくちやうけなう。ああしただくちやうけなう」)

とうとう考えたが、頭あたまにのしかんとおたじぶは、ほくじぶ

とおそにもなうじぶばかりだった。うっただの……。

休み時間やすみじかんになった。また、みゆるがゆっしを、

「モンキー。」

とんだ。みゆるのまわりまわりにいた子こたちが、ぐっしと

わらい始はじめた。みゆるが、ほくのほみを見みた。

ほくと目が合あった。



「おれのものまね」

年 ^{ねん} 組 ^{ぐみ} 番 ^{ばん}

名 ^な 前 ^{まえ} ()

【登場人物】

おれ



おれ



おれ



おれとおれが合った時、おれはおれに話したのだろうか？



じぶん

なか

か

自分だったら、どうするか「ふきだし」の中に「せりふ」を書いてみよう。

ゆうじは、

。。。。サルににてるよな。
。。。。モモンキーににてるよな。
。。。。サル、キー、ベイベー、キー。
。。。。サル、キー、ベイベー、キー。

みる

ゆうじ

ぼく



(例)

アンケート

★^{つぎ}次の^{しつもん}質問について、あなたの^{かんが}考えを^{おし}教えてください。

(^{なまえ}名前は^{きにゆう}記入しません。^{じぶん}自分の^{すなお}素直な^{きもち}気持ちで^{こた}教えてください。)

① あなたのまわりで、きれいだから（いやだから）などを^{りゆう}理由に、

「^{なかま}仲間はずれに^{とも}されている友だち」がいたら、

あなたは、どうしますか？

② あなたのまわりで、おもしろそうだから・・・などを^{りゆう}理由に、

「^{もの}ものをかく^{とも}されている友だち」がいたら、

あなたは、どうしますか？

うらに^{つづ}続きます。

③ あなたのまわりで、遊ぶ^{あそ}ふりをして、「ひどくぶつかられたり、

たたかれたり、けられたりする友^{とも}だち」がいたら、

あなたは、どうしますか？

④ あなたのまわりで、おもしろそうだから・・・などを理^{りゆう}由に、

「いやなことや、はずかしいことをさせられている友^{とも}だち」

が いたら、あなたは、どうしますか？

(3) 小学校高学年向け

単元名：いじめをたち切る正義

「わたしのせいじゃない」（日本文教出版）

内容項目：C 公正、公平、社会正義

1 指導観

本授業は、いじめの未然防止および早期発見を目的として、加害者だけでなく傍観者の存在にも着目し、被害者のために行動できる児童の育成を目指して設定したものである。児童はいじめの場面に直面した際、「自分が被害者になるかもしれない」という不安や、加害者との人間関係への配慮などから、必ずしも即座に正しい判断や行動ができるとはかぎらない。

本時では、一人一人が自分にできる方法でいじめに「NO」という表示する意識をもち、教室の空気を変えていこうとする行動をとれるかどうかを重視している。導入では、児童が抱える心配や葛藤に寄り添いながら、いじめに対する複雑な感情を共有する場を設ける。展開では、傍観者の立場に焦点を当て、傍観者の迷いや葛藤を理解し自分にできる行動について多面的・多角的に考えさせる。個人思考からグループ討議、再度の個人思考という流れを通して、児童が他者の意見に触れながら自分の考えを深めることを重視する。話し合いの際には、司会や話す順番、質問の仕方などを事前に決めておくことで、議論の活性化を図る。また、学習支援ソフトを活用し、意見の共有や分類を行うことで、児童の気づきを可視化し、いじめに対する具体的な対応策を明確にしていく。終末では、児童が自分にできる方法でいじめに「NO」という意思を示すことの大切さに気づき、教室の空気を変えていこうとする心情の育成を図る。

いじめの未然防止を実現するためには、児童一人一人がいじめに気づき、被害者のために自分なりの方法で行動することが重要であるということを伝えたい。

2 本時の指導

(1) 目標

いじめに対して傍観者の立場になった時に、自分が出来ることを理解しいじめを断ち切るために気付いて、動こうとする態度を養う。

(2) 展開

過程 時配 形態	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ○指導と支援 ★評価	資料 教具
導入 5分 個人 ↓ 一斉	1 事前に行ったアンケートの結果をもとに思ったり、考えたりしていることを発表する。 ○アンケートで聞かれたことと同様な場面を見たとき、どんな気持ちになりますか。 ・とても悲しくなる ・いじめられている子を助けたい。	○事前にいじめに対してアンケートを取っておく。 ○泣いているこの挿絵を黒板に貼ることで、いじめについてイメージしやすくする。 ○いじめを止めることの困難さを確認する。	被害者の挿絵 ワークシート

	<ul style="list-style-type: none"> ・注意したら、自分もいじめられそうで怖い。 		
<p>展 開 30分 個人 ↓ 一斉</p>	<p style="text-align: center;">いじめ見かけた時には、どのようにすればよいだろうか。</p> <p>2教材「わたしのせいじゃない」を読んで考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○この子は、なぜ泣いているのでしょうか。 ・いじめられているから。 ・叩かれたから。 ・悪口を言われたから。 ・男のくせにと言われたから。 ・誰も助けてくれないから。 ・クラスでひとりぼっちな気持ちになっているから。 <p>◎泣いている子の周りにいた①から⑤の誰にどのような声掛けをしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「見ているだけでよかったの？」と声を掛けます。理由は、いじめに気づいたら先生や大人に相談することが大切だと思うからです。 ・「怖い気もちはわかるよ。一緒に先生に伝えにいこう。」と伝えます。理由は、後からでも、助ける方法があるからです。 <p>○グループ話し合った内容を発表し、いじめを見かけたときに大切な考え方はどのようなものか考えまし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の方便に納得してしまう児童もいるが、「本文に表れている現象はいじめです。」とはっきり指摘する。 ○なぜ起こってしまったのか、関係ない人はいるのか、なぜ続いてしまったのか、責任の重い人軽い人はあるのかなど、いじめの原因や関係性、責任の重さなどを考えるための補助的な問いかけを行う。 ○傍観者の立場の迷いや葛藤を踏まえ、どのように行動すべきかを考える。 ○グループ討議では、3人組で①～⑤のテーマから1つを選び、泣いている子に対する自分の声掛けする内容とその理由を発表する。その後、質問・意見・感想を交わし、必要に応じて声掛けを修正する。全員の発表後に、学習支援ソフトで考えを共有する。 ○話し合いが終わったグループは、別の傍観者への声掛けについて、同じ流れでもう一度討議を行う。 ★①～⑤の登場人物の考えや気持ちを想像しながら、いじめを止めるためのアドバイスが発表できているか。 ○発表が終わったら、学習支援ソフトを使って意見を学級全体で共有する。 	<p>被害者の挿絵</p> <p>①～⑤の挿絵</p> <p>いじめの四層構造の図</p>

<p>終末 10分 一斉</p>	<p>よう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめかもしれないと思ったら、先生や親に伝えるようにする。 ・一人では難しい場合は、いじめと一緒に止めてくれそうな人を見つけて行動する。 ・いじめがある限り、そのクラスに関係のない人はいない。 <p>3 今後の自分のあり方について考える。</p> <p>○身近で見かけた「いじめ」に対して、あなたはどのようにしていきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」を見つけたら、見て見ぬふりをしないで先生に伝えるようにする。 ・自分で解決できない問題だと感じた場合は、ためらわずに誰かに相談する。 	<p>○教師は児童の発表を板書し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○：被害者を直接守る行動 ☆：間接的に守る行動 □：被害者に寄り添う行動 <p>に分類し児童の気づきにつなげる。</p> <p>○もし児童の意見が「加害者を止める」ことに偏っている場合は、導入の意見を振り返り、誰でもその行動ができるのかを考えさせる。</p> <p>○いじめを見かけた時の大切な考え方をもとに、実際に自分にできる行動を考える。</p> <p>○被害者への多様な支援方法を確認する。</p> <p>○一人一人がいじめに「NO」を表示する意識をもち、教室の雰囲気を変えていこうとする心情を養う。</p> <p>★いじめの未然予防には、気づきと自分なりの支援行動が重要であることに気づくことができたか。</p>	
--------------------------	---	--	--

板書

わたしのせいじゃない

○いじめを見かけた時には…


- ・止めたいけれど、止めるのは難しい。
- ・注意したら、自分も…
- ・とても悲しくなる。



☆知っていたなら、先生に伝えれば…



□やられているのを見たなら、なぐさめて…



☆見たのなら、助けを呼んであげたら



☆見ているだけでよかったのかな



□ほっといてよかったのかな。話を聞いてあげれば

○身近で見かけた「いじめ」に対して…

○いじめを見かけたなら、見て見ぬふりをしないようにする。よくないと伝えるようにする。

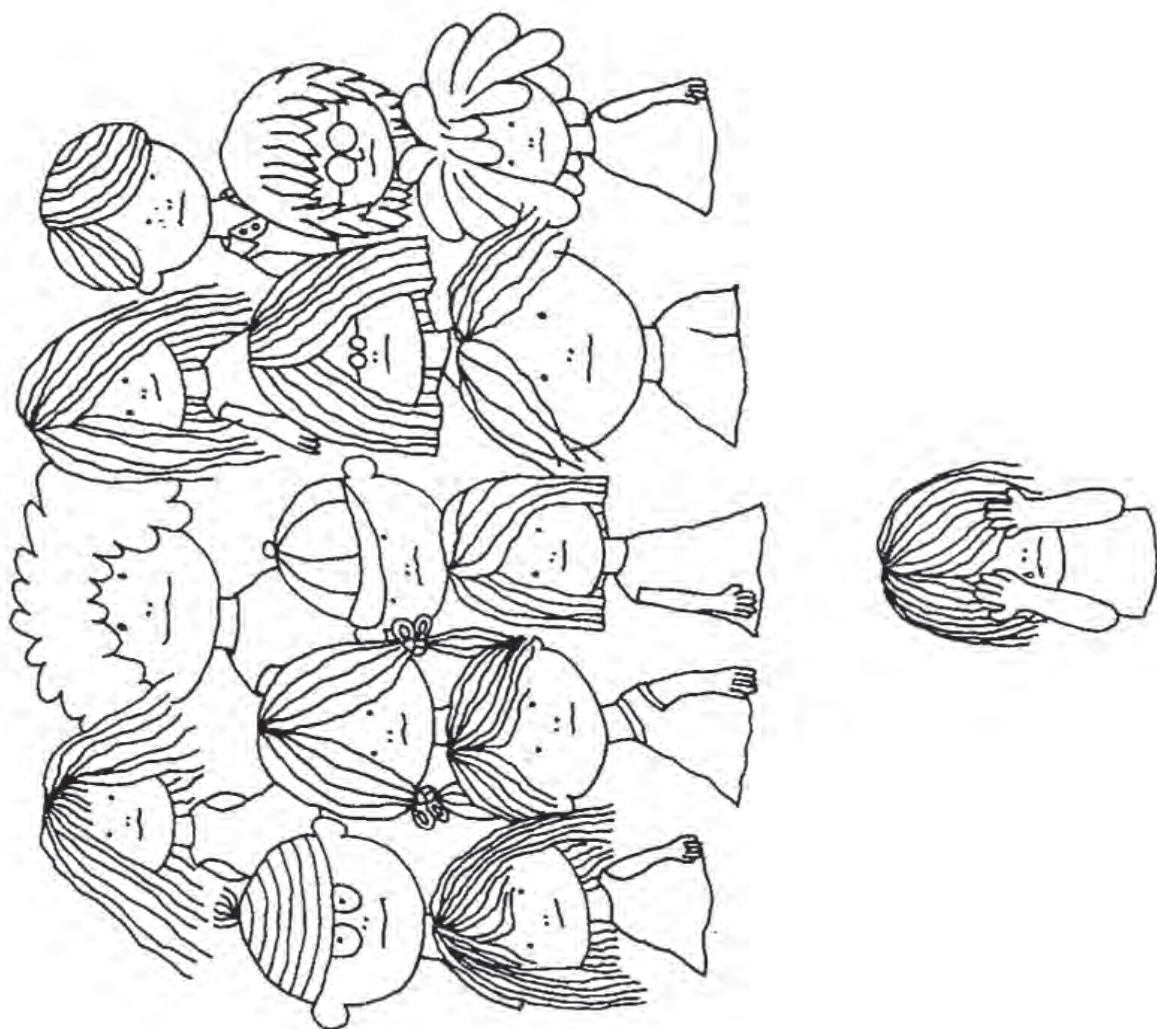
☆自分で解決できない問題だと感じた場合は、ためらわずに誰かに相談する。

□悲しんでいる子のそばにいてあげるようにする。

いじめの被害者を助けるためには、早くいじめに気づいて、被害者のために自分にできる行動をすることが大切。

わたしのせうじやなら

△泣いている子がいるのに、みんな「わたしのせうじやなら」とさうおも。



お校のやああかへに

あしたのうたを

わたしのあそびあそび



あそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそび



あそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそび

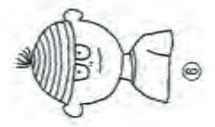
あそびあそびあそびあそび



あそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそび

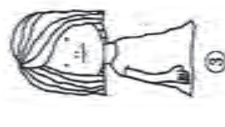
あそびあそびあそびあそび



あそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそび



あそびあそびあそびあそび

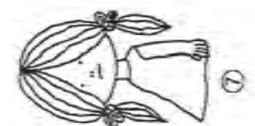
あそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそび

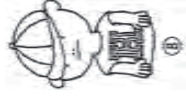
あそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそび



自分のせうしやがら

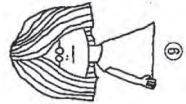
その子が かわつてゐるんだ



母の干ばめんが ぶつに替るに

考へるにやがたにんだ

せんせんおもしろくなんだ



自分のせうだも

その干ば ぶつに替わつたに

お母さんに話をしたとて



泣いてゐるんだ

泣いてゐる野の子がんと

わつたも



おもしろくなつたのち

先生に うつてねがうに

ちねおしなも



わたしにせ かんけうがら

せんがにやがたに

その干ばに 母さんおもしろ

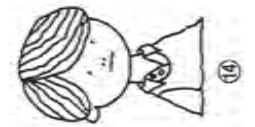
なにかわつたんだ



ぶつにや じやくがた

思つたを みつめたらけれた

わがくせうに



わたしのせしじやなし

ねん ぐみ ばん な まえ
年 組 番 名 前 ()

〇じいめを見た時にどんな気持ちになりますか？



〇このじいめを止めるために、①～⑤の人にどのように話しかけましたか？

番号	

〇友だちの意見を聞いて考えが変わった人は書きましょ。



番号	

★身近に見かけた「じいめ」に対して、あなたは何の気持ちになったか。

(例) アンケート (高学年用)

★次の質問について、あなたの考えを教えてください。

(名前は書かなくてかまいません。自分の正直な気持ちで教えてください。)

- ① あなたのまわりで、「きらいだから」「いやだから」などの理由で、
「仲間はずれにされている友達」を見たら、あなたはどうしますか？

- ② あなたのまわりで、「おもしろそうだから」などの理由で、
「持ち物がかくされている友達」を見たら、あなたはどうしますか？

- ③ あなたのまわりで、遊んでいるふりをして、「強くぶつかられたり、たたかれ
たり、けられたりしている友達」を見たら、あなたはどうしますか？

- ④ あなたのまわりで、「おもしろそうだから」などの理由で、「いやなことや、
はずかしいことをさせられている友達」がいたら、あなたはどうしますか？

(4) 中学校向け

単元名：過剰な盛り上がりと集団心理

「もえあがる応援席」※出典：「いじめや人権、話し合おう、変えていこう。Changers (チェンジャーズ)」誰でも無料で活用できる教材シリーズ第11弾

内容項目：C-(15) よりよい学校生活、集団生活の充実

1 指導観

いじめや人権侵害にあたる行為がなされる背景の一つには、集団の雰囲気の影響があるとされている。一人でいるときには道徳的・倫理的なふるまいをするよう気を付けることができているが、集団にいるときにはその場の雰囲気に流され、規範意識が薄れることがある。

本教材は、スポーツの応援が過剰に盛り上がりすぎてしまう場面を手がかりとして、集団の雰囲気と規範意識の関係について考えるものである。スポーツの応援の中では、最初は純粋な気持ちで応援していたものの、応援しているチームを勝たせたい気持ちが盛り上がりすぎてしまい、つい人を傷つける言動が起こりうる。応援をしている側は軽い気持ちで声をかけているだけかもしれないが、言われた側や聞いている側は、傷ついたり、不条理感を感じさせられたりすることがある。本教材を通して、一度つくられた雰囲気の中で自分はどうか行動すべきか、また、そうした集団の雰囲気を未然に防ぐことはできるのかということを考え、一人一人が集団の中での自分の役割と責任を自覚して、集団への帰属意識をもち学校生活をより充実したものにしようとする機会としたい。

2 本時の指導

(1) 目標

過剰な応援のため、試合に勝ってもうかない顔をしている主人公の心情に寄り添うことで、自らの所属する集団が充実するためにとるべき言動について考え、よりよい学校生活を送ろうとする実践意欲を育てる。

(2) 展開

過程 時配 形態	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○発問 ・予想される生徒の反応	指導上の留意点 ○指導と支援 ★評価	資料 教具
導入 5分 一斉	1 今日のテーマについて想像をふくらませる。 ○学校生活が充実していると思うときは、どんなときか。 ・友達との関係が良好なとき ・授業内容が理解できたとき ・部活動に取り組んで成果が出たとき ・行事に向かって協力しているとき	○これまで経験してきたクラスの行事を振り返りながら集団への関わり方について自覚的になるよう話をする。	
	よりよい集団であるためには、何に気を付けたらよいのだろう		
展開 35分 一斉	2 教材「もえあがる応援席」を視聴する。 ○視聴した感想を伝え合おう。 ・最初はよかったけれど、途中でからおかしくなっていた。	○内容が伝わりづらかったようであれば、何が起こったのかということを確認する。 ○生徒の感想から、次の発問につなげる。	大型モニター

<p>個人 ↓ グループ ↓ 一斉</p> <p>終末 10分 個人 ↓ 一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗がからむと相手の悪口を言ってしまうがちになる。 ・身の回りでも同じようなことがあった気がする。 <p>3 カノンのもやもやしている心について考える。</p> <p>◎カノンは、どうして勝ったのにもやもやしているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援がおかしかったから。 ・あの発言はいじめにあたるのではないか。 ・対戦していた自分たちは、全く思いもしないひどい言葉が、なぜ次から次へ出てきたのか。 ・なぜ、おかしな応援になってしまったのだろうか。 ・応援するとき、感情的になったり熱くなったりすることはよくあることだと思う。 ・相手チームに申し訳ない。 <p>○カノンは、クラスのためにもりあがる応援席に対して、どんな思いをもっただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスのために応援してくれているから、仕方ない。 ・自分は心から喜べない。 ・よくない気がするが、どうしたらよかったかは分からない。 <p>・相手クラスの応援団はどんな応援をしたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが負けていたら、何を言われていたのだろうか。 <p>4 今日の授業を振り返る。</p> <p>○全員が心から「よかった」と思えるために必要なことは、どんなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかしいと気付いた人が声をあげられるようにする。 ・相手を尊重する心をもつ。 ・SNSでも気を付けた方がよい。 ・注意された人も受け入れる。 <p>○授業の振り返りを書こう。</p> <p>○級友の振り返りを読んで、自分の考えを深めよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○最初から応援がおかしかったのかを振り返り、応援が過激なものになっていった過程を想像できるようにする。 ○生徒の考えをつなぎ、議論へと発展するよう促す。 ○偏った意見しか出なかった場合、切り返しの発問で生徒の考えを深める。 ○カノンが試合に勝ってもうかない顔をしている現状を捉えられるよう議論を進行する。 ○集団が悪い雰囲気に向かったときどうすればよいのか、多面的、多角的に考えられるようにカノン、自分のクラス、相手のクラスという3つの視点を示して、共有する。 ○中心発問から議論したことをもとに、ねらいが自分事になるよう発問する。 <p>○テーマを意識した振り返りを書いているか確認する。</p> <p>○SNSなど日常生活に目を向けさせ、冷やかしいやいじめにつながるないようにするにはどうしたらよいか考えさせる。</p> <p>○個の振り返りを1人1台端末に入力し、全体で共有する。</p> <p>★利己心や狭い仲間意識を克服し、協力し合って集団生活の向上に努めようとしている。 (1人1台端末)</p>	<p>1人1台 端末</p>
---	---	---	--------------------

(板書計画)

燃え上がる応援席

よりよい集団であるためには

○「燃え上がる応援席」を見て

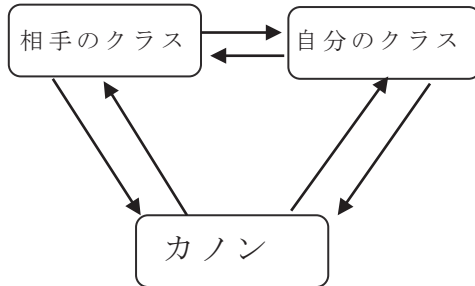
・最初はよかったけれど、途中からおかしくなった

○カノンは、どうして勝ったのにもやもやしているのだろう



・応援がおかしかった
・いじめと言えるのではないか

○それぞれどんな思いなのか



○全員が「よかった」と思えるために必要なこと

・おかしいと声をあげる
・相手を尊重する心をもつ

【補足】記号について

N……ナレーション

M……その人物のモノローグ（心の声）

セリフの中にある括弧書き……心情や状況についての補足

S E……効果音

主な登場人物と設定

- カノン 小6女。スポーツが大好き。素直で優しい性格であり、普段からみんなと協力してなにかをやりとげようと頑張る。バスケットは未経験であるが、一生懸命練習してきた。
 - 応援席
 - A・B……（小6男）自分のクラスが優勢で、応援がもりあがる中、気持ちも大きくなり、普段はあまり言わないような相手のプレーを嘲るようなことを言ってしまう。
 - C……（小6女）前の二人と同じく、相手を嘲ることを言ってしまう。プレーと関係のない姿勢に関するとも言ってしまう。
 - D、E……（小6女）真剣に応援するあまり、相手チームのプレーに対して強く言ってしまう。
-

1コマ目 バスケットの試合にのぞむカノンたち。

N カノンの通う学校では、クラス対抗のスポーツ大会があります。スポーツが大好きなカノンは、バスケットボールの試合に出ることにしました。今日は、いよいよ大会本番。カノンたちは、この日のために力をあわせて練習をがんばってきました。

カノン みんな！ 今日絶対勝とうね！

クラスメイト達 おー！

2コマ目 活躍するカノン。盛り上がる応援席のクラスメイトたち。

S E ドリブル、シューズの擦れる音などプレー中の音

カノン いけーっ！ 入れー！ (シュートをして、入るよう願う声)

S E ゴール音、歓声

カノン やったー！

N 試合では、カノンが大活躍！

何度もシュートを決めます！

応援席みんな カノン、いいぞー！ ナイスシュート！

その調子、その調子ー！！

みんな、がんばれー！！ (ポジティブな応援の声があがる。それぞれ別の声)

N クラスメイトのいる応援席も、熱く、もりあがってききました！

応援の声は、どんどん大きくなっていきます。

ところが…。

3コマ目 応援が盛り上がる中、気持ちが大きくなりハメをはずした嘲笑や暴言も

- 応援席 A ははっ。見た？ 今の相手チームのパス。へただなー。
- 応援席 B 見た見た。おーい、何だよそのパスー！ へたくそー！
- 応援席 A B はははは。(イラスト右の2人。相手チームのミスを見下して笑う)
- 応援席 C みんなー、あいつが穴だぞー！ あいつをねらえー！
ほらほらっ、必死になって、変な顔になってるー！
変顔、うけるー！(イラスト中央の1人。隣の嘲笑に影響され、ミスを嘲笑する。容姿についての指摘も加わる)
- 応援席 D はーっ？ 今のファールだろっ！ ふざけんなよ！
- 応援席 E ずるーっ！ おーい、ひきようだぞー！ 聞いてんのかよー！ …ないわー！(強い言葉を煽るように相手にぶつける)
- N 熱くなった応援席からは、「がんばれ」という声だけでなく、いろいろな声が聞こえるようになってきました。

4コマ目 嘲笑や暴言にとまどうカノンと、一部のプレイヤー。

- 応援席みんな ガヤ「まっとうな応援の声、良くない応援の声が混在する」(がやがやした声がフェードアウト、遠くなって、次のセリフへ。という編集イメージ)
- カノンM みんな…。すごいもりあがってる…。
応援してもらうのは、うれしい…。けど…。(セリフのとおり、

応援が盛り上がっているのは嬉しいが、優しい性格のカノンは暴言や嘲笑に戸惑いも感じる)

5コマ目 試合には勝ったが、戸惑うカノン。

S E

ホイッスル

N

試合は、カノンたちのクラスが勝利しました。応援席のクラスメイトたちから歓声があがります！(明るく)
しかし…活躍したはずのカノンは、一人、うかない顔…。(暗く)

カノン M

試合、勝てて、よかったな…。でも、なんだか、ちょっともやもやするな…。みんなよろこんでるけど、これでよかったのかな…。まあ、試合には勝ったし、よかったのかな…？(勝った嬉しさと、暴言・嘲笑への戸惑いに、混乱している)

終

(4) 高等学校向け

単元名：「いじめの構造」を学ぼう

1 指導観

本授業は、前時で「いじめの定義」を共通理解したことを受けて、「いじめの構造」について学ぶことで、それを参考にどのようにすればいじめの防止につなげることができるか、実践的な行動力を育むことをねらいとする。いじめは、加害者－被害者のみの関係性で構築されているわけではなく、「観衆」「傍観者」も存在しており、これがいわゆる「四層構造」である。とくにもっとも外側から問題を見ている傍観者の立場の人が、いかに行動することが重要かを考えさせたい。

出典：真下麻里子著『弁護士秘伝！教師もできるいじめ予防授業』（教育開発研究所 2019年）

2 本時の指導

(1) 目標

いじめの「四層構造」を理解し、その上で傍観者がどのように行動すれば、いじめを抑止できるのか考え、自らの行動に繋げることができる。

(2) 展開

過程・時配 (学習形態)	学習活動・主な発問と生徒の反応	○指導上の留意点 (UDの視点も含む) ☆評価 (方法) ◎個別の支援	資料
導入 15分 (一斉)	1 教材文を読み、出来事の概要を共通理解する。 ○いじめの定義を復習する。 ○Cさんに対する行為はいじめでしょうか。 ・Cさんが悪口を言われているのでいじめである。 ・Cさんが苦しんでいるかは分からない。	○学習の流れによっては事前に読んでおくことも可。 ・第一時のことを提起し、定義そのものを確認する。 ・Cさんはこのあとどうなるでしょうか。などと問うことで、早期発見の重要性を感じさせる。	教材文 掲示物など
「いじめ」の場にいる人が、それぞれどのように行動すれば、問題を解決することができるだろうか。			
展開 25分 (個別) (一斉)	2 それぞれの気持ちを想像する。 ○それぞれの気持ちを考えてワークシートを完成させよう。 ○記入後、グループで意見交換する。	・特にグループの意見を統一する必要はない。 ・話し合いの過程で自分の意見が変わってもよい。 ・「もしCさんではなく、あなたが	ワークシート

<p>終末 10分 (一斉)</p>	<p>○全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Dさんが怒るのは当然。 ・Aさんの気持ちもよくわかる。 ・Bさんは学級委員なので困っていると思う。 ・Cさんは、どうしても早起きできず、苦しんでいると思う。 <p>3 それぞれがどのように行動すれば、いじめが防げるか話し合う。</p> <p>◎Cさんがいじめられないように、それぞれの人は「いつ」「なにを」すればよかったですでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生に報告する。 ・ものまねを止める(Cさんをかばう)。 ・今後の練習について、話し合う。 <p>4 いじめの「構造」について知る。</p> <p>○「四層構造」の説明を行い、それぞれの立場の人はそのうちどれになるのかを知り、どのように行動すればよいのか考える。</p> <p>○「小さなYES、NO」の説明をする。</p>	<p>遅刻したらどうなると思うか」などと追加発問をすることで、Cさんの排除によって問題が解決しないことを共通理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさん～Dさんのどの生徒の意見にも触れるようにする。 ・どの意見も受け入れつつ、特定の意見のみ賞讃することは避ける。 <p>○個々の意見を尊重するため、個人で考え発表できるようにする。</p> <p>○「このクラスは合唱コンクールで自分の力を発揮できそうか?」「そもそも何のために朝に練習しているのか?」と追加で問うことで、児童生徒が個々にどのように個人の尊厳を尊重できるか、ルール変更なども視野に入れた考えを出せるようにする。</p> <p>○「もし、この問題を解決するのが、合唱コンクール後になった場合、スムーズに進むか」と問い、早期対応の重要性を感じさせる。</p> <p>○先生に報告することやCさんをかばうことにリスクがあり、自分の身を守ることが必要であることも話す。</p> <p>○Cさんの遅刻を改善させることに収斂しないように配慮する。</p> <p>○図示することで、いじめは「被害者」「加害者」の二者間構造ではないことを理解させる。</p> <p>○2で出た意見に触れながら、「傍観者」は何ができるのか考える。</p>	<p>ワークシート</p> <p>掲示物</p>
----------------------------	---	--	--------------------------

<p>(個別)</p>	<p>○「傍観者の役割」を再確認する。</p> <p>5 まとめ</p> <p>○傍観者としてできることがあり、それを実行することでいじめの抑止につながる。</p>	<p>○生徒が「できそう」なものを見出し、行動に移せるものを獲得できるよう、なるべくたくさんの例示をし、承認する。</p> <p>○「ほんの少し」「自分にできること」でよいことを確認し、今後の行動に繋がるようにする。</p>	
-------------	--	--	--

板書計画

<p>四層構造 の図</p>	<p>○いじめの四層構造について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の報告する。 ・ものまねを止める。 <p>○Cさんがいじめられないように、それぞれの人は「いつ」「なにを」すればよかったですでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Cさんと一緒に登校する。 ・先生に報告する。 ・ものまねを止める。 <p>○それぞれの気持ちを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Dさんが怒るのは当然。 ・Aさんの気持ちもよくわかる。 ・Bさんは学級委員なので困っていると思う。 ・Cさんは、どうしても早起きできず、苦しんでいると思う。 <p>○文を読んで考えたことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Cさんが悪口を言われているので、いじめである。 ・Cさんが苦しんでいるかは分からず、いじめだと言えない。 	<p>「いじめの構造」を学ぼう</p> <p>○「いじめ」の場にいる人が、それぞれのように行動すれば、問題を解決することができるだろうか</p>
--------------------	---	--

【補足】

- 授業の骨子 ①課題の提示—②各立場の意見を検出—③解決策の検討—
④いじめにおける四層構造の共有—⑤傍観者（または自分）にできることの検出

上記の骨子に沿って学級に応じた題材することも可能

○本案は高等学校用として作成したが、小学校高学年以降であれば、言葉を簡単にするなどの配慮の上、実施することが可能である。

○本案は「出典」の著者である真下麻里子氏の監修を受けている。また、以下も参照のこと。
ストップいじめ！ナビ <https://stopijime.org/>

【事例】

1. Aさんの中学校では、毎年1回、合唱コンクールがあります。
2. 下級生であっても優勝することができるので、毎年、どのクラスも本気で練習して優勝を目指します。
3. Aさんのクラス（40名）では、1年生のときに優勝経験のあるBさんが指揮者に選ばれました。Bさんは、成績もよく学級委員長でもあり、みんなの人気者でした。
4. 「Bさんが指揮者なら優勝は間違いない！」とクラス全体が盛り上がっていました。
5. あるとき、Bさんの提案で30分の朝練を始めることになりました。反対する人は誰もいませんでした。
6. ところが、実際朝練をはじめると、必ず10分ほど遅刻してくる人がいました。ソプラノパートのCさんです。
7. Cさんは、いつもより早く起きるのがどうしても苦手なようでした。
8. 何度も遅刻してくるCさんに対し、指揮者のBさんが怒ったりすることはありませんでした。
9. しかし、クラスの中でも特に一生懸命練習しているDさんたちのグループ（4人）から、Cさんに直接言ったりはしないものの、「一生懸命クラスをまとめてくれているBさんがかわいそう。」、「Cのせいでモチベーションが下がる。」、「うちのクラスが優勝できなかったらCのせいだ。」などの声があがるようになりました。
10. そのうち、Dさんたちは、陰でCさんの悪口を言ったり、朝、教室に駆け込んでくるCさんの様子を面白おかしく真似したりしはじめました。
11. それを見て、Dさんたちのグループだけでなく、他の生徒たち（15名ほど）も大きな声で笑ったりするようにもなりました。
12. Aさんは、Aさん自身も朝起きるのが苦手でCさんの気持ちがわかるので、Cさんをかわいそうに思いました。また、クラスのみんなの行動がどんどんエスカレートしているように感じ、少しこわくなりました。
13. でも、Aさんは、みんながDさんたちのモノマネを笑っているのにつられて、声は出さないものの、その場で笑顔になってしまいました。
14. 指揮者のBさんは、特に笑うこともなく、みんなの様子を静かに見ていました。
15. そして、遂に、Dさんたちは、大きな声で「やる気のない人と一緒にいるってことは、その人もやる気がないってことだよな？」などと言いはじめました。
16. それをきっかけに、Cさんに声をかける人が誰もいなくなってしまうようになりました。みんながCさんを避けるようになりました。
17. Aさんは、このままではいけない、何とかしなければと思いました。

以上

ーいじめ予防授業ワークシートー

()年()組()番 氏名()

1 ワーク 1

各場面での登場人物の気持ちや考えを想像して、書いてみましょう。

(1) 場面 9 の D さんたち

Dさんたちは、どんな状態で朝練をしたかったのでしょうか。何度も遅刻してくるCさんのことをどんな風に思っていたのでしょうか。どうして欲しかったのでしょうか。

(2) 場面 11 で大きな声で笑った 15 名ほどの生徒たち

15名ほどの生徒たちは、なぜ「大きな声で」笑ったのでしょうか。どんな気持ちだったと思いますか。

(3) 場面 13 の A さん

なぜAさんは、Cさんをかわいそうと思いながらも笑顔になってしまったのでしょうか。

(4) 場面 8 と場面 14 の B さん

なぜBさんは、Cさんを怒らなかつたのでしょうか。みんながDさんたちのモノマネを笑っていても、特に笑うこともなく、みんなの様子を静かに見ていたのはなぜでしょうか。どんな気持ちだったと思いますか。

(5) 場面 16 の C さん

Cさんは、何度も遅刻する自分をどう思っていると思いますか？また、みんなに避けられるようになって、どんな気持ちだと思いますか。

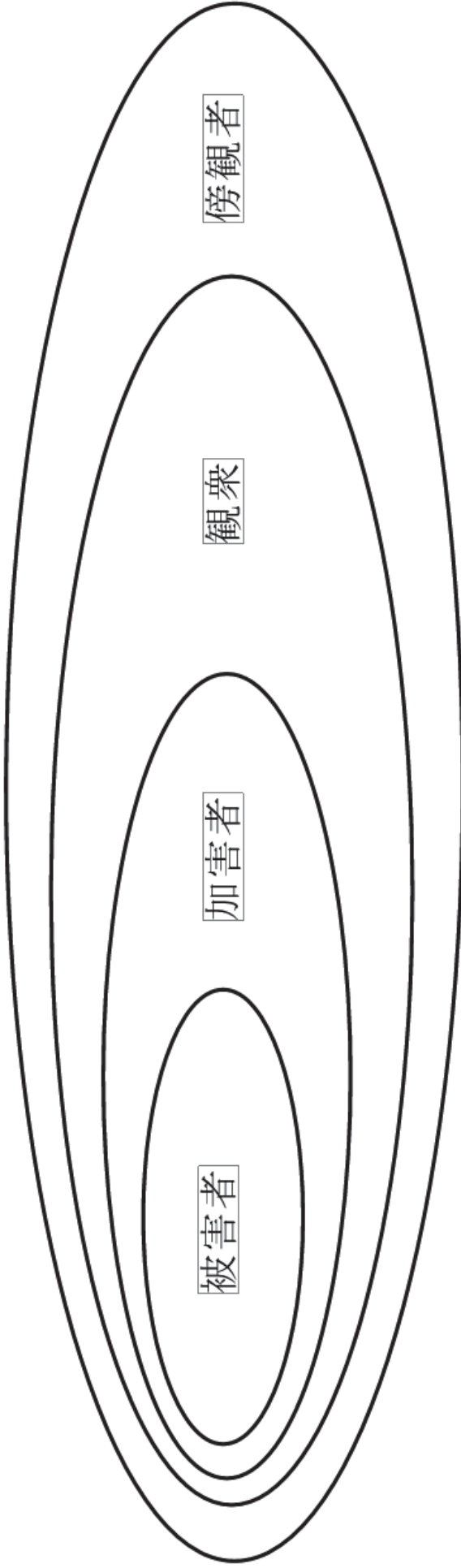
2 ワーク2

Cさんが場面16の状況に置かれてしまうことを避けるため、自分が以下の登場人物だったら、どの時点でどんなことをしますか。場面を2つ選び、書いてみましょう。

人物	どの時点	どんなこと
(例) Aさん	15	他の友達に「Cさん大丈夫かな？」と相談する。
Aさん		
Bさん		
Dさん		
大声で笑った15名		

以上

【揭示用】四層構造の図



いじめの四層構造 (森田洋司) より

3 モデル実践授業後の感想

〈小学校1・2年生〉*P33～37参照

- ・自分がやられていやなことはしない。
- ・いじめをしている人がいたら、勇気をもって大人に言う。
- ・友達が悪いことをしていたら注意する。

〈小学校3・4年生〉*P38～46参照

- ・みのるが言っていることって人を傷つけるりっぱないじめだ。
- ・ゆうじが悲しそうだよ。それはいじめだと思うよ。
- ・かわいそう。あとで先生に言おう。

〈小学校5・6年生〉*P47～54参照

- ・できるだけ止めに入る。できなくても友達と一緒に先生や大人に助けを求める。
- ・見て見ぬふりはしないで、友達や大人に協力してもらおう。
- ・勇気をもってだめなものだめだと言うようにしていきたいです。

〈中学校〉*P55～61参照

- ・学校生活だけではなく、部活動の場面でもありえるなと思った。これからは言葉や行動に責任をもって生活していきたい。
- ・学校生活をよりよくするために、相手の気持ちをよく考えて発言、行動をすることが大切だと感じた。
- ・クラスの目標でもある「その言葉、発する前に一步ストップ」が改めて大切だと感じた。

〈高等学校〉*P62～68参照

- ・自分が加害者にも被害者にもなりうる可能性があって怖いと思った。
- ・今回の授業で、いじめはどこからどこまでいったらしっかりと気づいてやめさせたり止めたりしなくてはいけないと感じた。
- ・人への関わり方をしっかりとしないといけないなと思いました。自分は大したことじゃないだろうと思っていても相手は傷ついているかもしれないので、誰に対しても優しくいたいと思いました。

〈教職員（授業者）〉

- ・「いじめを目撃したときに自分ならどうするか」について考える機会があったのはとても良かった。子どもたちも多くの意見が出ていた。
- ・吹き出しへの記入は、直接注意するだけではなく、身近な人に相談することもできることに気付くことができたのがよかった。
- ・ワークシートと学習支援ソフトの両方は負担が大きい。事前はワークシートで、話し合った結果は学習支援ソフトであれば時間短縮できる。
- ・教材は、モニターで映像を視聴することになる。発問の提示についても、モニターを効果的に使用することで、生徒の思考をより促すことができると思う。
- ・人との関わりについて、いじめと関連付けながら生徒に考えさせ、ワークシートに記入はできた。発言が活発にならなかったため、授業展開に改善の必要があった。

4 評価と分析

前述の感想を見ると、小学生では「勇気をもって大人に言う」（通告）、本人に「いじめだと思う」と言う（仲介）など、傍観者から脱却するような思いを感じる感想が出た。また、中・高校生では「相手の気持ちをよく考えて発言」「自分が加害者にも被害者にもなりうる」など加害者になり得る可能性まで想定したものが出ている。

こうしたことから、模擬授業（法的知識、いじめの基準など）を踏まえ、傍観者脱却などの効果を想定したモデル授業としては一定の効果があったと評価できる。

一方、こうした結果が、明確にアンケートに表れていない（質問（3）（8）（11）など）ことについては、「IX アンケート結果と考察」でも触れたように様々な可能性を検討する必要があると思われる。